

# 浪華倉庫と帝人事件

(三)

広岡一男

どころか、寧ろ、私をあわれみ慰めるかのようだ。それで、  
「そんな事心配しなくてもいいよ。浪華倉庫が相当な業績を挙げ  
ている限り、台銀は決して手放すようなことはしないから」  
と答えて下さった。そして続けて、  
「他の事業と違つて倉庫業なら、銀行が経営してもおかしくない  
だろう。現に世間にはその例もあることだし……」

(前号までのあらまし) 鈴木商店の破綻の結果、浪華倉庫も台湾銀行の管理下に置かれていたが、東京の渋沢倉庫との間で極秘裡に売買交渉が進められ、昭和八年末に至り、遂に買収合併されることになった。その後に帝人事件が勃発し、島田頭取はじめ主脳者が悉く検挙された。若し、この事件の起るのが今少し早かつたら、渋沢倉庫との商談は中止されたりに違ひないし、従つて、浪華倉庫及び社員達の運命も大きく変つていただろう。

(五)

既に述べたように、私は浪華倉庫下関支店長として、在京得意先を歴訪のため、毎年少くとも二回は上京した。そしてその都度、業況報告のため、台灣銀行に越藤整理課長を訪れた。越藤さんは、いつも快く迎えて下さった。お会いする度毎に尊敬の念と共に親しみが増し、まるで学校の先輩に対するような気安さで話が出来るようになった私は、單刀直入、

「ところで、浪華倉庫は一体どうなるんですか」と、ザックバランに聞いてみたことがあった。私達の最も気になつてゐる事であり、一番知りたい事であった。

このようないつて質問に対し、越藤さんは不快な色を現わす

それは事実その通りであった。十五銀行と帝国倉庫、川崎銀行と東京倉庫、安田銀行と安田倉庫などの例があった。また、それとは趣が違うが、三井倉庫・三菱倉庫・住友倉庫・渋沢倉庫等は、それ同系列の銀行の機関倉庫といつてもよかつた。当時は、倉荷証券による金融が盛んだったの、銀行としては信頼できる関係倉庫を持つことは何かと便利だつたし、倉庫にとつても貨物獲得上有利であった。銀行と倉庫とは、いわば相互に共存共栄の関係にあつた。だから台銀が、唯一の株主として浪華倉庫を経営しても、決しておかしくはないと思われた。

しかし、浪華倉庫は、結局は身売りされたのである。それでは、

越藤課長が私に答えた言葉は、

(1) 課長は本当にあの言葉通り考えていたのか?  
(2) 或は単なる気休め(社内人心の動搖を恐れての)であつたのか?

(3) それとも、業績を向上させ、より有利に処分せんがための魂胆(こんたん)であつたか?

(4) 当面の責任者たる越藤課長としては、あの通りの意見であつたが、台銀の方針として協議決定までには至らなかつたか?

(5) 或は、台銀の方針としてもあの通り決定していたが、日本銀行か又は大蔵省当局の圧力により、売却処分せざるを得なかつたのか?

右のうちの何れかであろうと思われるが、しかし、その真相は遂に知る由もない謎である。

ここで、浪華倉庫の沿革と、渋沢倉庫に買収合併される直前の業況の大略を述べて置きたい。

(沿革)

大正六年二月、大阪の堂島浜通りにあつた安田商事株式会社大阪支店の倉庫施設を買収し、「株式会社浪華倉庫」の社名で開業、資本金は一〇〇万円(全額払込)であつた。

大正九年、五〇〇万円に増資し、下関・横浜・小樽の三支店と土地部を新設した。下関支店は、馬関倉庫(大里倉庫の後身)を合併して大正九年五月に開設され、横浜支店は、鈴木商店製油工場跡を買収して大正十年三月に開設、小樽支店は、これより少しおくれ、鈴木商店小樽支店の所有倉庫を譲受けた。

土地部は、鈴木商店が全国各地にわたつて所有していた土地・建物を管理するために設置されたものである。

昭和二年四月、神戸市葺合所在の鈴木商店所有倉庫を譲受けた神戸出張所を開設。

昭和三年、小樽支店倉庫を昭和倉庫に売却して、小樽支店を廃止。

昭和六年二月、倉庫部門と土地部門とを分離し、前者は新たに資本金三〇〇万円(全額払込)の「浪華倉庫株式会社」となり、後者は蓬萊不動産株式会社となつた。

浪華倉庫株式会社の本支店及び出張所の所在地は次の通り。

本店 大阪市北区堂島浜通三丁目

幸町出張所 大阪市西区幸町通二丁目

南福崎出張所 同 港区南福崎町

天保山出張所 同 港区二条通

木津川出張所 同 港区千鳥町

神戸出張所 神戸市葺合区南本町通

横浜支店 横浜市神奈川区千若町二丁目

下関支店 下関市観音町

小森江出張所 小森江

## 利益金及び株主配当率

	昭和六年上期	昭和六年下期	昭和七年上期	昭和七年下期	昭和七年五月	昭和七年五月	昭和八年上期	昭和八年五月
主要保管貨物	七一、六八六円	八〇、〇三一円	八〇、三九六円	八六、〇六八円	八七、二五七円	一四、一二〇千円	一八、八二三円	一六、六六九円
五分	五分	五分	五分	五分	五分	一五、六八〇円	一七、八四七円	一七、八四七円
木	木	木	木	木	木	木	木	木
材	材	材	材	材	材	材	材	材
神	神	神	神	神	神	神	神	神
戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸
出	出	出	出	出	出	出	出	出
張	張	張	張	張	張	張	張	張
所	所	所	所	所	所	所	所	所

(次号につづく)

横浜支店

下関支店

小森江出張所

門司市小森江

横浜支店

下関支店

